

## 総合的な学習「L I F E」のカリキュラム開発

1999年度総合的な学習推進委員会

高地 秀明	畦 浩二	信木 伸一
藤原 敏夫	鷓木 毅	大江 和彦
甲斐 章義	後藤 俊秀	村上 和男
平賀 博之	山下 雅文	新福 一孝

中学校の「総合的な学習」のカリキュラム開発を行う上での視点と考慮すべき課題を明確にしなが実践的な研究をおこなった。総合的な学習は単に「知識の獲得」を求めるのではなく、体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れることで、教科等で身に付けられた知識や技能などが相互に関連付けられ、「生きる力」を育むことができる。

### 1. はじめに

当校では平成11年度から中学校の「総合的な学習」の試行を始めた。学習指導要領に示されている新しい社会に対応した「生きる力」を育むためには、問題解決（探究）学習や体験的な学習をととして「自己学習力」を培い、「自己の生き方」についての自覚を深める教育内容の具体化が大切であると考え。これらの課題を明確にして、教科の枠を超えて学びの拡がりやつながりを考慮した教育課程を創造する実践的な研究をおこなっている。本稿では、主に「総合的な学習」の単元やカリキュラム開発の視点と実践の概要を報告する。

### 2. 「総合的な学習」で育む能力

「総合的な学習」は、教科等ではおこなうことが難しい学習構造の導入を意図している。教科は「知」の構造を獲得するためにおこなわれる。しかし、予め目標や内容が設定され、それに到達することが目的化された学習活動は、子ども達に受け身になりがちな学習態度を形成する要因となってきた。最近の子どもたちに見られる指示待ち傾向や自己決定力の低下、探究心の欠如、自己確立の弱さなども、従来型の学習構造の負の部分である。これに対して「総合的な学習」では、「主体的な学び」や「自己の生き方の自覚」などの「生きる力」が強調されている。このねらいについて、教育課程審議会答申（平成10年7月29日答申）では次のように述べられている。「総合的な学習の時間のねらいは、各学校の創意工夫を生かした横断的・総合的な学習や児童生徒の興味・関心等に基づく学習などを通じて、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることである。また、情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方などの学び方やものの考え方を身に付けること、問題の解

決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育成すること、自己の生き方についての自覚を深めることも大きなねらいの一つとしてあげられよう。」

これらから育まれる能力の要点を整理すると次のようになる。

- ① 自ら課題を発見し、よりよく問題を解決する能力。
- ② 興味・関心に基づき、課題解決や探究活動に主体的・創造的に取り組む態度。
- ③ 情報の集め方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方などの学び方や、ものの考え方の習得。

このように、「総合的な学習」は単なる「知識の獲得」を求めているのではない。体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れることで、教科等で身に付けられた知識や技能などが相互に関連付けられ、深められることをととして、「学びの意味の獲得」や「知の総合化」を目指しているのである。

### 3. カリキュラム開発の視点

学習指導要領に示されている「生きる力」について考えるとき、それは教えられて身に付くものではなく、実際のこどもたちの学習活動において、それが発揮・活用される場面や仕組みをいかにつくっていくのが大切であり、そのための具体的な単元やカリキュラムを開発していくことが必要となってくる。当校では以前から自己学習力の育成や学びの拡がりを視野においた多様な学習活動を展開している。それは生徒の選択による課題探究学習、実験実習を多く取り入れた体験的な学習、実際に現地に出かけての野外学習、自然観察、環境学習、社会見学といった内容であるが、学びを拡げ、教科の枠を超えて学びのつながりを求める総合的な学習であり、「生きる力」を育む実践であると言える。このような現在までの実践をふまえて、当校での「総合的な学習」のカリ

表 総合的な学習「L I F E」の内容（1999年度の実践計画）

学 年	学習のテーマ	学習のねらい
1 年 生	学びの基礎 (コンピュータの活用)	コンピュータを活用して、学びの基礎となる情報の集め方、調べ方、まとめの方法などの能力を伸長し、課題を自ら発見し、自ら学ぼうとする態度を育む。また、この学びをアイデンティティーを確立していく営み「自分探し」と位置づけ、自己学習、自己表現、相互理解、相互評価を中心とした授業を計画する。この学習活動をとおして、プレゼンテーションなどの自己表現力やコミュニケーション能力を培う。
2 年 生	課題探究と学びの深化	環境について学ぶ 豊かな自然を五感を使って感じることで、自然や環境を大切にする意識を育む。また、身の回りの環境を観測するための技能を身に付け、科学的にとらえる能力を高める。観測したデータや環境問題について世界の仲間と交流し、自分の意見を簡潔に伝える能力を育成する。さらに、環境のために行動する能力を育てる。
	生活の中に数学を見つけよう	身の回りの様々な事象の中から数学的な課題を見つける力を養い、数学的な探究活動をとおして、習得した知識や技能を様々な状況に応じて総合的、創造的に活用する力を育む。数学を楽しみながら、生きて働く数学的な能力を育てる。
3 年 生	学びの拡がり	文章で表現しよう (郷土の文学をとおして) 今の生徒たちは、ものごとに感動し、それを自分のことばで表現することには苦手な傾向が見られる。このような実態をふまえて、鞆の津を詠んだ万葉歌人、大伴旅人の歌を題材に、自分の感性と自分のことばで作品を味わう。また実際に鞆の浦を訪ね、現地に立った実感にもとづいて深く作品を味わう。同時に、設定した課題の解決に必要な情報収集・分析を行い、自分の作品を創作し発表する。これらをとおして自己を表現する。
	卒業論文をつくらう	近い将来（高校生）の自己の理解・認識の成長を客観的に確認し、よりよい社会の成員としての自分に何が必要かを考えるため、現在の自己を、分析・理解・表現する。「卒業論文をつくらう」という目的に対し、自己の課題の発見、情報化社会における情報収集・情報分析、発表を前提とした批判的内容精選・内容構成・表現方法の工夫を通じて、自らの意見を論理的かつ効果的に発信できる態度と能力を育成する。
	コミュニケーション	情報を分析し、自分の意見を持つ 現代の情報社会の中で生徒たちはあふれるほどの情報にさらされている。根拠のあいまいなものや、扇情的なものなど様々な情報が含まれている。生徒がこうした情報を批判的に分析し、自主的に評価・判断し、同時に自分の意見を効果的に構成・伝達できる能力を育てる。
	音楽で伝えよう	これまでの音楽学習で培った力を中心に、言葉や様々な表現媒体を用いて、各個人の能力を発揮しながら仲間と協力して豊かな表現をつくる能力を育てる。



キュラム開発にあたっては、下記の7点について考慮しながら研究実践をしている。

- (1) 教科学習と総合的な学習との関係を整理し、教科学習の基礎基本をふまえた上で、それと関連を持たせながら、系統的、発展的、横断的な単元やカリキュラムの開発をおこなう。
- (2) 既に当校で実施されている総合的な学習内容を含んでいる実践を新学習指導要領に示された教育のあり方を考慮しながら、再編・再構築をする。また、遠足や社会見学旅行などの行事を総合学習と関連させ、そのフィールドワークとしての活用を検討する。
- (3) 課題の発見・探究、情報分析、問題の解決、まとめと発表・自己表現、コミュニケーション、自己評価など、学びの総合化（知の統合）に視点を置いた単元やカリキュラムを開発する。
- (4) 個々の課題やテーマについて、知識を「覚える学習」ではなく、自ら考え解決していく「自ら学ぶ学習」を仕組んでいく。
- (5) 体験的な学習をとおして豊かな感性や創造性を育み、学びの楽しさを実感できる学習活動を創造する。
- (6) 生徒の学習や生活の実態から課題を捉えて、教育内容に反映する。

#### 4. カリキュラムの全体構成

##### (1) 「総合的な学習」の名称

当校では総合的な学習の時間を「L I F E」という名称で呼び、時間割等にも記載する。

##### (2) 授業の形態

（平成11年度は各学年とも週一時間の学校裁量の時間を当てて試行する）

- ・1年生学年共通の内容でクラス単位で実施
- ・2年生テーマ別の探究学習（生徒の選択による）
- ・3年生テーマ別の探究学習（生徒の選択による）

##### (3) 「L I F E」の概要とねらい

###### ◇全体目標

- ・課題の発見・探究などの活動をとおして特に「学び方」や「問題解決能力」を育む。
- ・学びの成果を表現・伝達し共有するといったコミュニケーション能力を培う。
- ・多面的な学習をとおして「自己の生き方」についての自覚を深める。

###### ◇1年生……「学び方」を学ぼう（学びの基礎Ⅰ）

多彩な学習活動を効果的に展開するために不可欠なコミュニケーション能力の育成を目指す。特にコンピュータを利用して、情報の整理・分析・まとめなど、情報活用能力や表現力を伸長する。

###### ◇2年生……課題を探究しよう（学びの基礎Ⅱ～学びの深化～）

課題についての探究的な学習を深め、自ら学ぼうとする主体的な意欲や学習したことを様々な場面で生かそうとする態度を身につけさせる。

###### ◇3年生……課題を探究し、表現しよう（学びの拡がり～表現活動とコミュニケーション～）

課題発見や探究的な学習をとおして批判力や分析力を高め、自己と社会との関わりを見つめながら「自己の生き方」についての自覚を深める。また、学んだことをまとめ、豊かな感性と創造力をもって伝達・表現するコミュニケーション能力を育む。

##### (4) 総合的な学習「L I F E」の内容 前ページの表

